

第3学年 組 道徳学習指導案

- 1 主題名 家ぞくのやくわり (中学年4－(3) 家族愛)
資料名 「おかあさんのせいきゅう書」 (日本文教出版)

2 主題設定の理由

- 本主題は、家庭という人が生活を営むうえでの最も基本的な構成単位の中で、重要な一員として協力し合って楽しい家庭をつくろうとする態度を育てることを主なねらいとしている。家庭の人間関係を内面から支えているのは、相互の信頼や敬愛の念に裏付けられた家族愛である。家族に対する親愛の情は毎日の日常生活の中で自然に育っていくものであるが、身近な関係であるために、お互いの人格を認め合い心の交流を図り感謝する心情はなかなか育ちにくい。現代は核家族化が進み、子どもも昔のように決まった仕事があるわけでもなく、手伝いなどしなくても生活には困らない状況にあり、家庭のあり方が問われている時代でもある。そんな家庭環境の中で、子どもたちの意識も、「自分が特をすればいい。」くらいの認識しかなく、親が子どもの面倒をみるのは当然といった風潮がある。こうした背景の中で、報酬のためという目的ではなく、家族の一員としての自覚や家族に対するやさしさから、自分が家族に支えられていることを実感させ、家族の一員としての自覚を深めさせることは意義深いと考える。本資料は主人公のだいすけがお母さんに対して自分の手伝いの代償を求め、いい気になっているとき、おかあさんからの無償の請求書に心を打たれて反省し、母親の優しさにふれ、自分も家族の一員として自覚を持つことの大切さに気づくといった内容である。家族からの一方的な世話を受けるのではなく、家族が自分にどのように気を配り、何をしてくれているのかを理解し、自分も家族の一員であることを自覚して役割を果たそうとする態度を養う上で効果的である。
- 本学級の子どもたちは、学級の仕事も友だちと協力しながら楽しく行っている。また、アンケートの内容からも家の手伝い進んで行っている子も多い。しかし、この時期は友だちとの結びつきが強くなり自分の遊びや考えを優先し、家族との約束を後回しにする甘えた心やわがままが出てくる時期でもある。そこで、きめられた仕事や約束を破り、注意を受けることも少なくない。これは、家族の一員として手伝いや仕事を通して満足感や喜びを味わった経験が少ないためであると思われる。したがって、本主題を取り上げ、自分が出したせいきゅう書とおかあさんのせいきゅう書の意味の違いを対比的に捉えることから家族の意味について考えることができる。自分が家族の一員であることを知り、みんなで協力し合って楽しい家庭をつくろうと努力することの大切さについて考えることは意義深い。
- 本主題の指導に当たっては主人公のだいすけの気持ちや行動を通して、おかあさんのせいきゅう書を見て、家族としてどのような心が大切であるかを考える子どもを育てていきたい。そのために、まず事前に、家庭での手伝いや仕事の内容、

その時の気持ちを事前につかむためのアンケートを行う。導入では問題意識を持つことができるように、お手伝いをしているときの写真を提示する。次に、「どんな気持ちでお手伝いをしていますか。」と問い、様々な気持ちを引き出し、本時のめあてにつないでいく。

展開前段では、だいすけが母親に対して出した一枚のせいきゅう書について話し合う。この時に多面的に気持ちを捉えることができるように、道徳ノートにだいすけの気持ちを書かせて発表させる。そして、希望がかなった時のだいすけの気持ちを押しえた後、おかあさんからのせいきゅう書を読んだときの気持ちについて話し合う。自分が出したせいきゅう書とおかあさんのせいきゅう書を対比的に捉えさせることによって、家族の願いや思いを知り、家族の一員としてみんなで協力し合って楽しい家庭をつくろうとするわかりが育まれると考える。

3 ねらい

- 自分が家族の一員であることを知り、みんなで協力し合って楽しい家庭をつくろうとする態度を育てる。

4 本時 平成 年 月 日（ 曜日） 第5校時 小3年 組教室において

5 準備

6 展開

| 段階 | 学習活動と内容 | 教師の支援 | |
|------|--|--|--|
| 導入 | <p>1 家庭でしているお手伝いについて話し合い、本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>家族を大切にしようとする自分の心を見つめよう。</p> </div> | <p>○ めあてをつかませるためにお手伝いの様子の写真を提示する。</p> | |
| 展開前段 | <p>2 資料「おかあさんのせいきゅう書」を読んで、だいすけの気持ちを話し合う。</p> <p>(1) 資料「おかあさんのせいきゅう書」の前半部分を範読する。</p> <p>(2) 日曜日の朝ごはんのとき、おかあさんにせいきゅう書をわたすときのだいすけの気持ちを考え、話し合う。</p> <p>※ おつかいに行ってやった。</p> <p>※ おこずかいをもらうのはあたり前</p> <p>(2) お茶わんのそばに400円が置かれているのを見たときのだいすけの気持ちを話し合う。</p> <p>①道徳ノートにだいすけの気持ちを書き、発表する。</p> <p>※ さすがおかあさんぼくの気持ちをわかってくれた。</p> <p>※ これからもお手伝いをした時にはせいきゅう書をどしどし書こう。</p> <p>(4) おかあさんからのせいきゅう書を提示してから、資料「おかあさんのせいきゅう書」の後半部分を範読する。</p> <p>(5) おかあさんのせいきゅう書を見てだいすけはどんな気持ちでしたでしょう。</p> <p>※ぼくは自分のとくになることしか考えていなかった。</p> <p>※おかあさんにもうしわけない。</p> | <p>○ 話の内容を把握できるように、登場人物や場面設定の説明をして範読する。</p> <p>○ だいすけの気持ちに共感させるために、せいきゅう書の内容を掲示し、一つずつ押さえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>だいすけはどんな気持ちでおかあさんにせいきゅう書をわたしたのでしょうか。</p> </div> <p>○ だいすけの気持ち 多面的に捉えることができるように、その時の気持ちを道徳ノートに書かせ、発表させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>だいすけはおかあさんにせいきゅう書を見てどんな気持ちでしたでしょう。</p> </div> <p>○ おかあさんのせいきゅう書を読んだときの気持ちを発表する。</p> | |
| 展開後段 | <p>3 自分の生活をふり返りながら、家族のために努力しようとすることを道徳ノートに書き、発表する。</p> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「家族っていいな。」と感じたことを思い出してみよう。</p> </div> | |
| 終末 | <p>4 おかあさんからの手紙を聞く。</p> | | |

お手伝いをしている写真

お手伝いをしている写真

お手伝いをしている写真

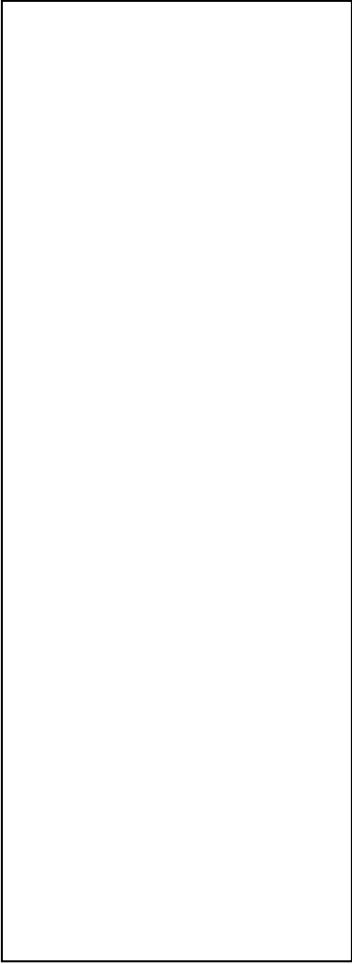


めあて
家族を大切にしようとする心を見つめよう。

場面絵

だいすけのせいきゅう書

おかあさんのせいきゅう書



めあて

家族を大切にしようとする心を見つめよう。

おかあさんのせいきゅう書

だいすけはどんな気持ちでおかあさんに

せいきゅう書をわたしたのでしょう。